

# 文献調査 research 3

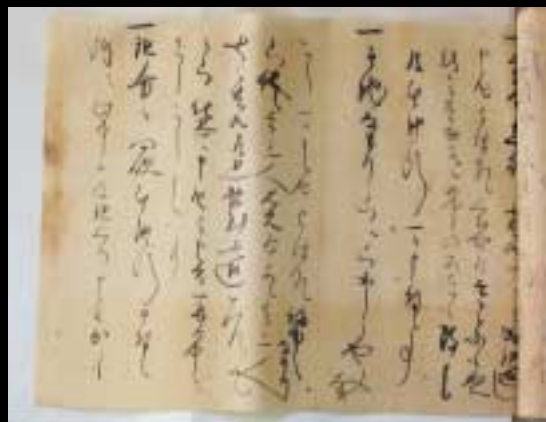
文献調査では、石見銀山・石見銀そのものの研究に加えて、周辺地域や近接する諸鉱山との経済的・社会的な関係について、また石見銀山と他地域の鉱山との関係についても研究に力を入れています。このために広範囲にわたる史料調査を実施しています。史料の所蔵者の協力をえながら、史料の整理・撮影・目録作成をしています。

石見銀及び日本銀の世界的な流通状況を知るために、海外関係の調査も行っています。現在はこれまで収集した史料の翻訳・分析や世界の研究動向の調査を継続しています。

このようにして収集した史料や研究成果を広範囲に活用してもらうために、データベースを充実させるようにしています。



調査風景



江戸初期「川上家文書」11号の一部

## 佐渡の史料に見る石見銀山の技術者(川上家文書)

新潟県佐渡の川上家文書の調査では、石見と佐渡の結びつきが大変深かったことがわかりました。石見も佐渡も大久保長安による支配を受けたために、佐渡の史料から石見銀山のことを記述した文書を見出すことができます。

川上文書は、佐渡金銀山の支配や経営の実態を知る上での重要な史料です。江戸時代の慶長から元禄頃までの文書が収められており、慶長期とりわけ大久保長安支配時代のものが大部分を占めます。

この文書には「其地なまり山へ、山かうしやの者こし可申候由被仰下候、備中之なまり山仕候者三人、石見より参者二人右之者共召連杉針右近まいらせ候て御山貸可申由被申候間」とあり、石見の技術者が佐渡へ移動し、人的交流があったことを示しています。この他にも宗岡佐渡や岩下惣太夫等の石見出身の地役人の活躍を記した史料もあります。

明治4年  
「判打帳」明治4年  
「諸山出灰吹銀出来灰吹銀書上」安政4年  
「銀鋳銅掛改勘定帳」

## 石見銀山の銀吹師・銀山町年寄の史料(小割家文書)

小割家は江戸時代、石見銀山の銀吹師および銀山町年寄でした。銀吹師は諸山から出された鋳を購入し、灰吹銀・銀絞銅を生産して、それを丁銀または銭に引替えるという機能をもっていました。この史料には、灰吹銀と銭の引替えや灰吹入用などを記した「判打帳」をはじめ、「御用留」、「灰吹銀書上帳」や、町年寄として大坂御銀蔵へ同行した時に記した道程日記もあります。

銀絞銅の請取覚書もあり、そこには銀絞銅を引受けた銅吹所には住友、熊屋、大坂屋駒太郎目、大坂屋又兵衛、岡屋、河嶋屋といった名前を見ることができます。その他、吹入用の覚え書きを綴ったものや、質地証文や銀吹関係の証文などもあります。全体として新しい時代のものが多いのですが、銀吹師の史料としては文献調査で初めて確認できたもので、銀吹師の仕組みがよく分かる貴重な史料といえます。



## 石見銀山歴史資料検索システム (データベース)

このデータベースは色々な使い方ができます。例えば全体の流れを示す年表を見ていて、特定の事柄を詳しく知りたくなった時には、その年表記事の根拠となった史料や文書の情報、関係ある文献や論文の書誌情報を簡単に参照することができます。さらには、該当か所の史料の写真や読み下し、書き下し、(外国語の場合は翻字、和訳)も参照することができるようにしています。